

□まちに広がるクラフト活動の風景



▲生涯学習センター（4階アトリエのオープンスペース）
アトリエ利用者とふらっと訪れる人のアイデアのシェア

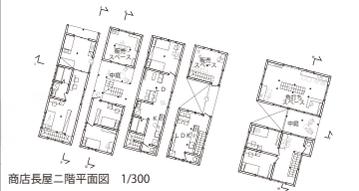
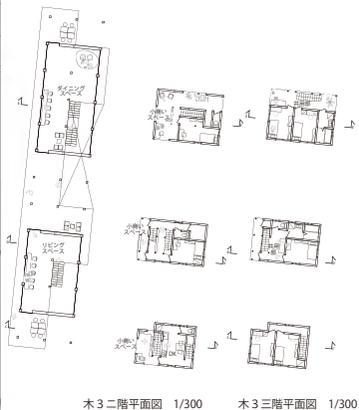
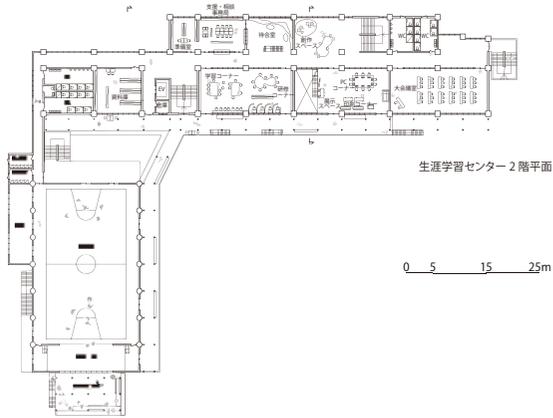
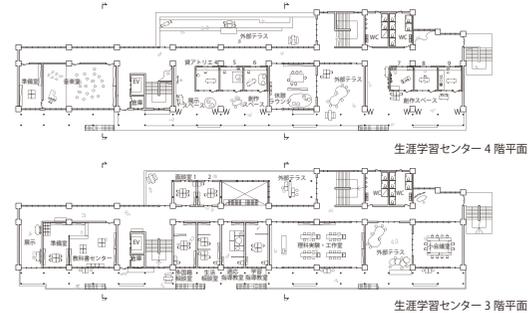
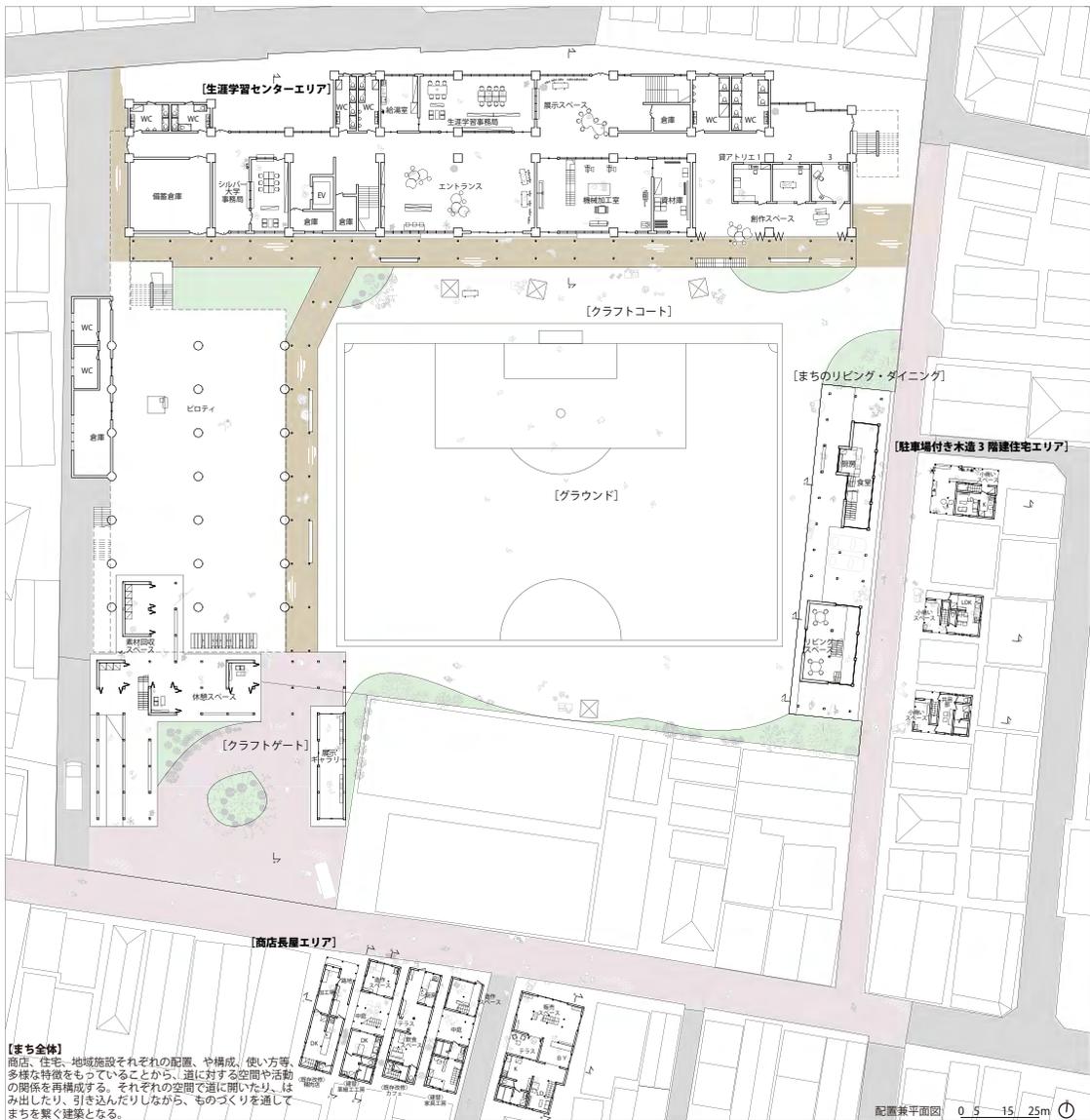


▲商店長屋（工房付き住居）
店と中庭で連続するものづくりの活動



▲駐車場付き木造3階建住宅（2階小高い空間）
住人の学習スペースと高い空間が隣り合う

□配置平面計画



▲生涯学習センター通り沿いの新築：通りから建築をつなぐゲートの役割



▲生涯学習センター木造増築：それぞれの活動を繋ぐ道の役割



▲駐車場付き木造三階建てエリア：小高いの店とまちのダイニングに挟まれた道路空間における活動



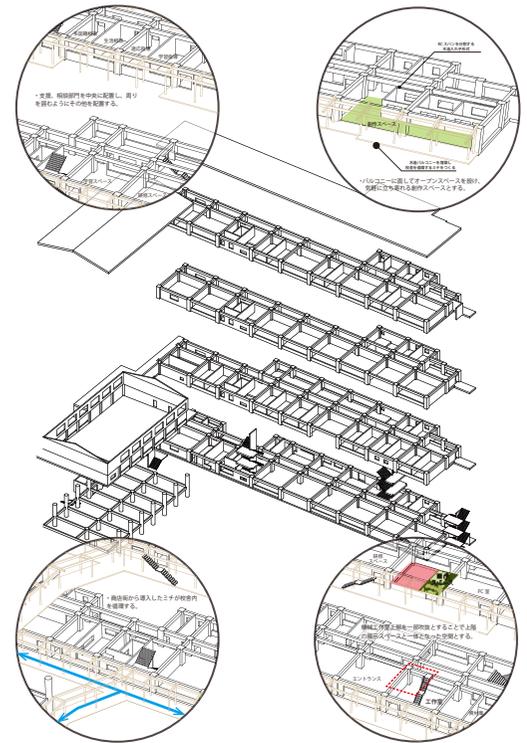
▲商店長屋エリア：既存店舗と工房付き住居が再び商店街に賑いを生み出す

□生涯学習センターエリア



敷地内に導入した新たな道と大きな空地を活用し、ものづくりや多様な活動が隣り合う関係をつくる。グラウンドではサッカーの練習が行われ校舎とグラウンドの間に設けたクラフトコートでは、室内で行われたものづくりが溢れ出し、内外が緩やかに繋がっていく。

■設計手法



商店街の通りと校舎を繋ぐ道の挿入に加え、既存校舎の空間形態を再構成することで活動間の接点をつくりだす。



▲生涯学習センター1階アーケード：校舎内のアトリエや創作スペースとクラフトコートを繋ぐ



▲生涯学習センター3階-4階外部テラス：建築の輪郭を和らげつつ、裏動線をつくる



RC ラーメンによる教室空間を解体することで活動間の接点をつくりながら、木造のパレコニーを増築することで外部の活動と緩やかに繋ぐ。教室単位の空間のほか、さまざまな場所に展示・創作スペース等のオープンスペースを計画し誰もが気軽に訪れることのできる学びの場を提案する。多様な活動に接点を生み出すことで、建築空間に内包された公共空間がかつての道のような活動の場へと変化する。

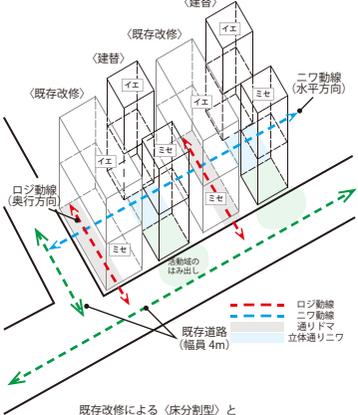


▲生涯学習センター外部：校舎からグラウンドまで連続する風景

□商店長屋エリア



■設計手法

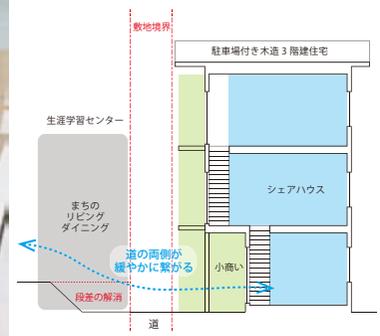


既存改修による(床分割型)と建替による(テマエ・オク分節型)の長屋
既存道路とロジ・ニワ動線によってそれぞれの長屋を行き来する回遊性をつくる

□駐車場付き木造3階建住宅エリア

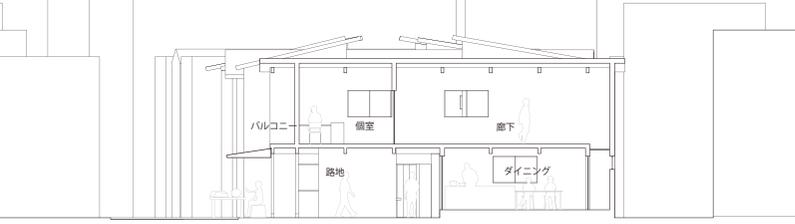


■設計手法



道の両側数mの領域を道と連続したオープンスペースとして捉え、敷地とは異なる境界をつくることで、閉じられた領域をまちに開く。

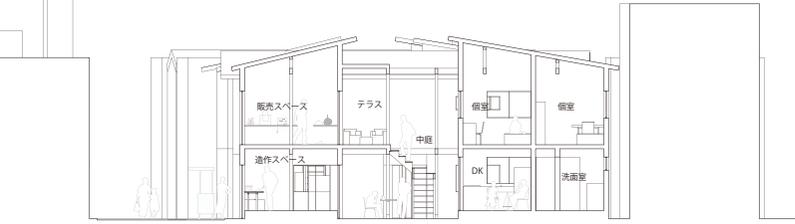
生涯学習センター側では、段差の解消・周辺住宅のスケールを踏襲した軒によって境界を和らげる。住宅側では、道に面した駐車スペースを高い空間とすることで奥まった住空間と道を繋ぐ。



商店長屋 F-F 断面図 1/100 0 1 3 5m



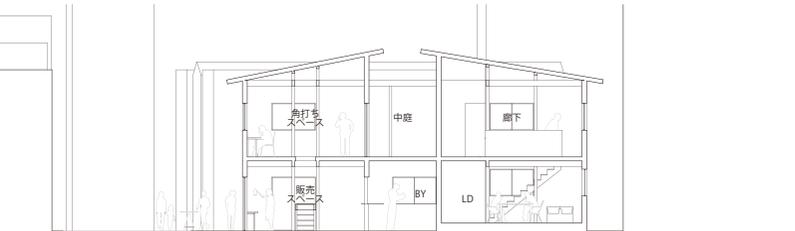
▲商店長屋精肉店路地：中で加工する風景を眺める



商店長屋 G-G 断面図 0 1 3 5m



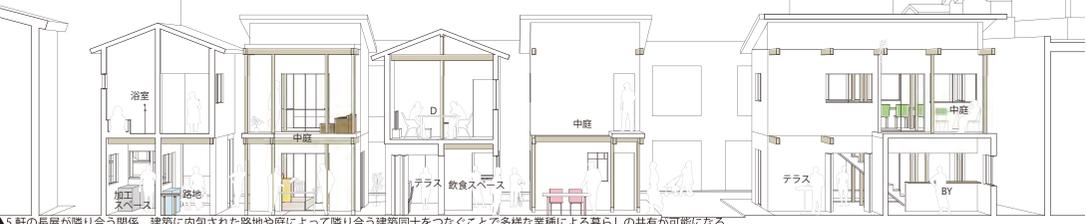
▲商店長屋革細工工房：加工作業が溢れ出す



商店長屋 H-H 断面図 0 1 3 5m



▲商店街通り：キッチンカー等が通り沿いに賑いを生む



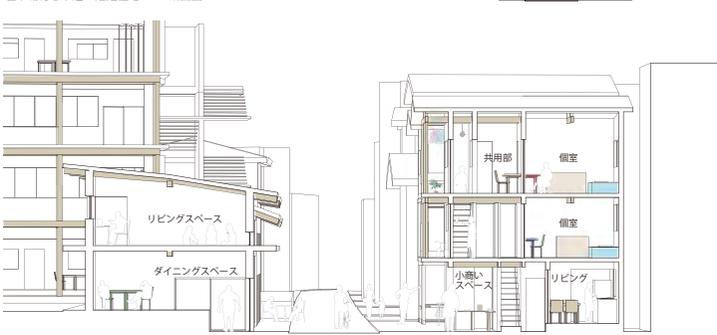
▲5軒の長屋が隣り合う関係。建築に内包された路地や庭によって隣り合う建築同士をつなぐことで多様な業種による暮らしの共有が可能になる。商店長屋 5軒横並び I-I 断面図 0 1 3 5m



駐車場付き木造3階建住宅 C-C 断面図 0 1 3 5m



▲シェアスペース：車を個人所有から公共に集約する



駐車場付き木造3階建住宅 D-D 断面図 0 1 3 5m



▲小高い×まちのリビング：道の両側で繋がる



駐車場付き木造3階建住宅 E-E 断面図 0 1 3 5m



▲小高い：使われなくなった駐車スペースを活用した小高い